


大分ダルク26周年フォーラム『回復の場所として』



回復に必要なもの

医療法人横田会向陽台病院 比江島誠人

令和5年3月5日(日) 13:20-14:20
ホルトホール大分

1

本日の内容

- 自己紹介/向陽台病院について
- 回復者調査
- 出会いと別れ
- 回復に必要なもの

2


ストレスコーピング ゲーム+ギャンブル




3

ASKアルコール通信講座

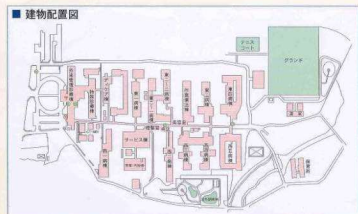
基礎クラス 介入技法トレーニングクラス



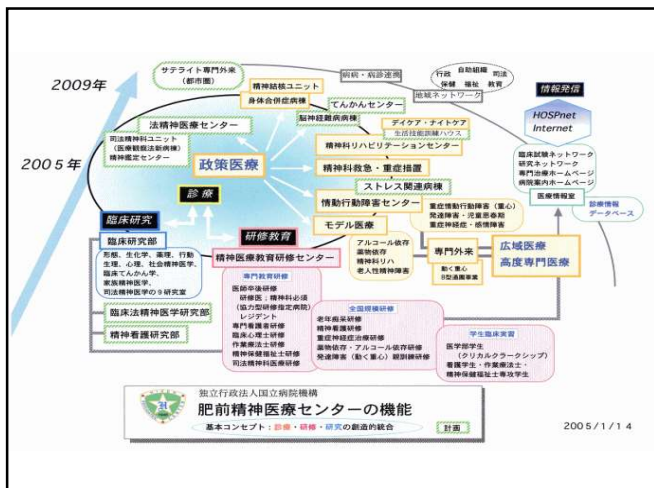
4



独立行政法人
国立病院機構
肥前精神医療センター



5



6



7



8



9

向陽台病院の概要

熊本県北部に位置/昭和38年開設

精神科・心療内科・児童精神科標榜 198床

精神科救急病棟	56床
児童・思春期病棟	31床
精神一般病棟	111床

10

病棟の構造

3F	児童思春期病棟 (31床)
2F	救急 (28床)
1F	救急 (28床)

11



12



13



14



15



16

●責任レベルについて（5段階）

責任レベルとは、① 行動範囲に対する責任② 自分の症状に対する責任という2つの意味があります

段階	呼び方	行動範囲	症状に対する責任
1	責任レベル 1-a	病棟内のみ	・症状について主治医やスタッフと相談しながら、心と身体をゆっくり休めましょう
2	責任レベル 1-b	病棟内のみ (スタッフ同伴で病棟外 OK)	・指定の病衣を着用します
3	責任レベル 2	病院敷地内	・自分の症状を知りましょう ・プログラム参加など、活動範囲を少しずつ広げましょう
4	責任レベル 3	他の患者さんと一緒に 病院敷地外 OK	症状の自己コントロールをめざしましょう
5	責任レベル 4	ひとりで病院敷地外 OK	さらに症状の自己コントロールをめざしましょう

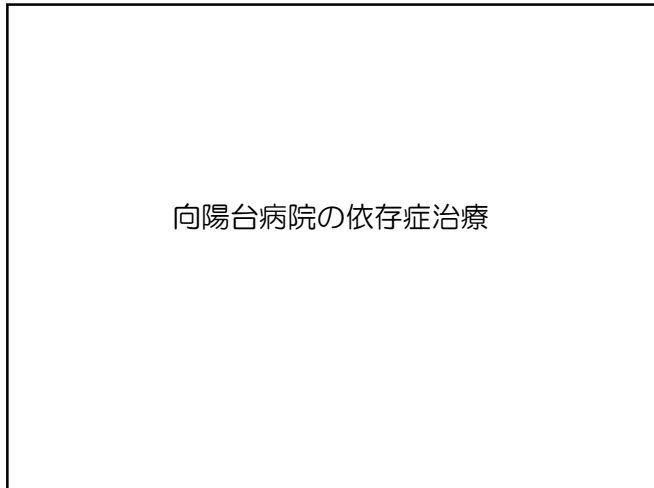
17

●服薬管理レベルについて（6段階）

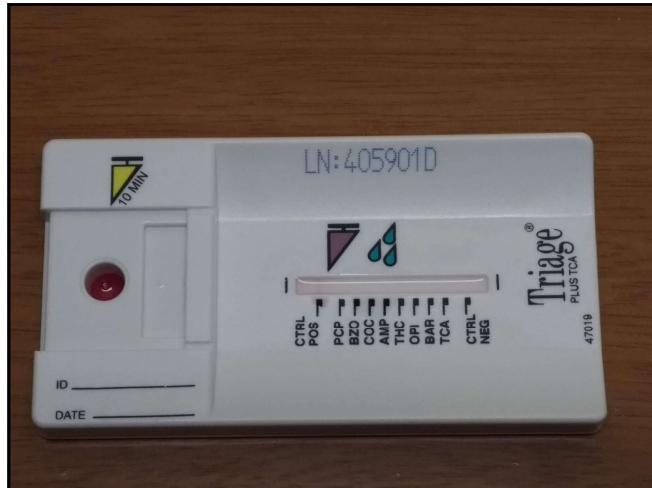
服薬管理レベルとは、退院後、ご自身で服薬管理をしていただくため、入院中に練習するステップです

段階	呼び方	薬の保管場所	薬セット	薬の管理方法
1	スタッフ管理	スタッフ	なし	スタッフが薬を管理し、服薬時間にお渡しします。慣れてきたら服薬時間にスタッフステーションに取りに来てください。次の段階への練習になります。
2	カウンター管理	ステーション	自分で 行う	服薬時間になったらスタッフステーションに薬を取りに行き、内服します。毎日、1日分の薬をケースに自分でセットします。
3	1日分自己管理	自室		ケースにセットした1日分の薬を、自室で管理します。服薬時間になったら、自分で内服します。
4	2・2・3日分自己管理			1週間を2日、2日、3日に分け、自分で管理する日数を増やします。
5	3・4日分自己管理			1週間を3日、4日に分け、自分で管理する日数を増やします。
6	1週間分自己管理			1週間分の薬を自分で管理します。

18



19



20

向陽台病院 依存症プログラム

本人向け
 火曜日 10:00-11:00 学習会(SMARPP-24)
 1クール12週間、うち1回は熊本DARC講師

金曜日 10:00-11:00 ミーティング

断酒会(第2土曜日)
 肥後糟の会(第4土曜日、摂食障害ミーティング)
 いずれも入院中・外来通院とともに参加可能

企画中 外来OT(エクササイズ、アディクション、子どもおふらいいんキャンプ)
 モデル Sai-DAT(さいがた医療センター) DARC de WRAP(大分ダルク・河村クリニック)

家族向け
 家族心理教育
 家族教室(ゲーム障害・ネット依存はオンライン)
 依存症家族教室は住所地により紹介、スタッフも参加
 熊本県精神保健福祉センター
 熊本市こころの健康センター(精神保健福祉センター)

依存症に関する診療相談(嘱託業務)
 熊本県精神保健福祉センター(Dr. 1回/月)
 熊本市こころの健康センター(PSW. 1回/月)

21

SMARPP-24 物質使用障害治療プログラム

—目次—

第1回 なぜアルコールや薬物をやめなくてはならないの？
 第2回 引き金と欲求
 第3回 薬物・アルコールのある生活からの回復段階 最初の1年間
 第4回 あなたのまわりにある引き金について
 第5回 あなたのなかにある引き金について
 第6回 薬物・アルコールを使わない生活を送るための注意事項
 第7回 依存症ってどんな病気？
 第8回 これからの生活のスケジュールを立ててみよう
 第9回 覚せい剤の身体・脳への影響
 第10回 精神障害と薬物・アルコール乱用
 第11回 合法ドラッグとしてのアルコール
 第12回 マリファナはタバコより安全？
 第13回 薬物・アルコールに問題を抱えた人の予後
 第14回 回復のために 信頼、正直さ、仲間
 第15回 アルコールをやめるための三本柱 抗酒剤について
 第16回 危険ドラッグと睡眠薬・抗不安薬
 第17回 アルコールによる身体の障害
 第18回 再発を防ぐには
 第19回 再発の正当化
 第20回 アルコールによる脳・神経の障害
 第21回 性の問題と休日の過ごし方
 第22回 あなたを繋ぐ仲間人間関係
 第23回 「飲くなるより飲くなれ」
 第24回 あなたの再発・再使用のサイクルは？

22

アルコールミーティング参加者表

2018年7月SMARPP-24導入

2018年4月 ↓

2019年4月プログラムを救急病棟で ↓

23

2019年度 依存症家族教室のご案内

依存症に苦しむ家族(妻・妻など)に寄り添うためには、家族の理解が重要で、適切な学びは本人だけでなく、大切な学びでもあります。この家族教室は、家族の心のケアの場であり、新しい家族生活の構築と共進の場です。

【日時】 毎月 第1土曜 19時30分～20時30分
 第2土曜 19時30分～19時50分
 【場所】 ぐんまが丘市民会館 1階 101会議室
 (熊本県中津地区大立5丁目1-1)

2019年度 依存症家族ミーティングのお知らせ

熊本県精神保健福祉センターでは、アルコール・薬物・ギャンブル等依存症を患える方の家族、理解者の皆様を対象に、依存症の理解や家族のケア、生活の再構築について、ご家族の理解や適切な対応を学ぶ場として、毎月開催しております。ご参加をお待ちしております。

【日時】 毎月 第3土曜 19時30分～19時50分

【内 容】 ① 依存症の理解、② フリーワーク(相互理解の場)OK! など
 ③ 家族のケアについて、④ 家族の再構築について

【2019年度実施予定】

4月19日	依存症について	10月1日	よみ解くコミュニケーションについて
5月17日	よみ解くコミュニケーションについて	11月15日	依存症の理解と家族のケア
6月21日	依存症の理解と家族のケア	12月2日	依存症の理解と家族のケア
7月19日	依存症の理解と家族のケア	1月17日	依存症の理解と家族のケア
8月16日	依存症の理解と家族のケア	2月21日	依存症の理解と家族のケア
9月13日	依存症の理解と家族のケア	3月20日	依存症の理解と家族のケア

【会 場】 熊本県精神保健福祉センター 2階 第2会議室2
 (熊本県中津地区大立5丁目1-1)

【お問い合わせ先】 熊本県精神保健福祉センター
 096-336-1166 (平日9時～16時)
 ※個別相談にも応じます。お電話にお問合せください。

参加費無料、予約不要です。当日会場にお越しください。

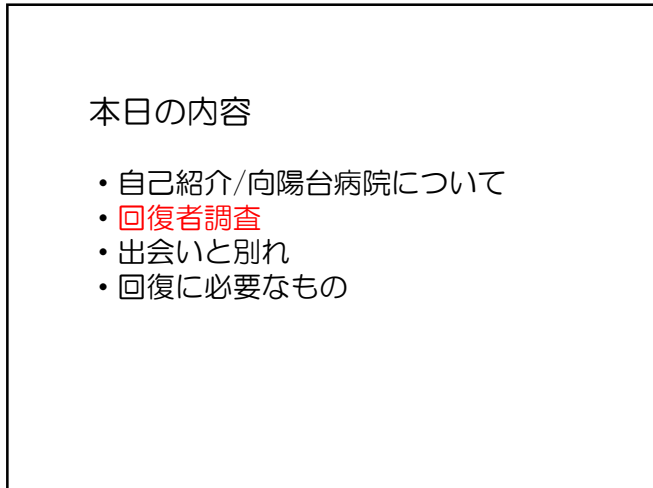
24



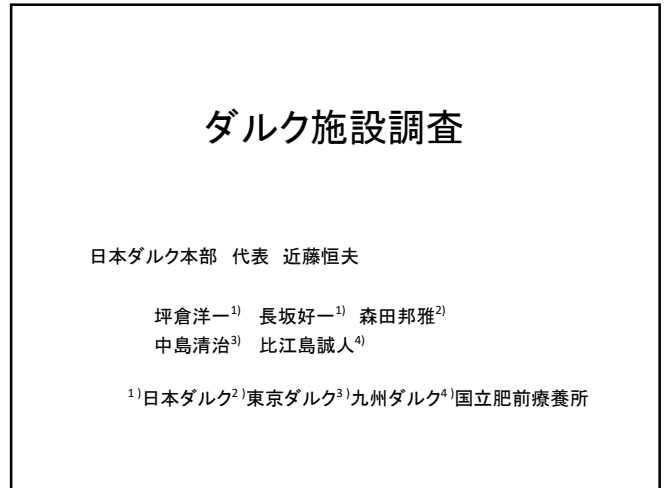
25



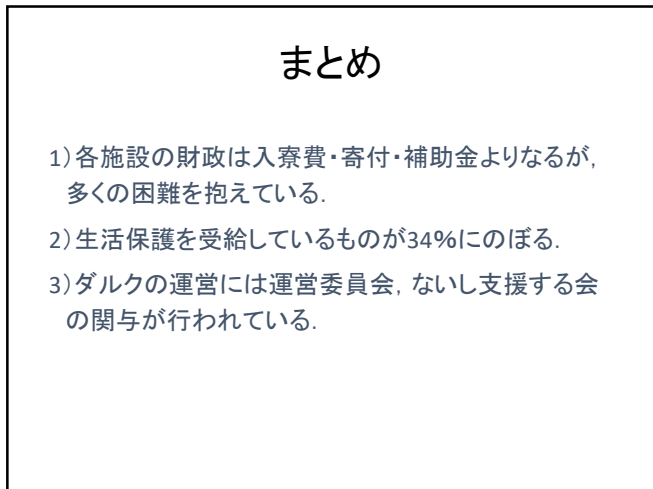
26



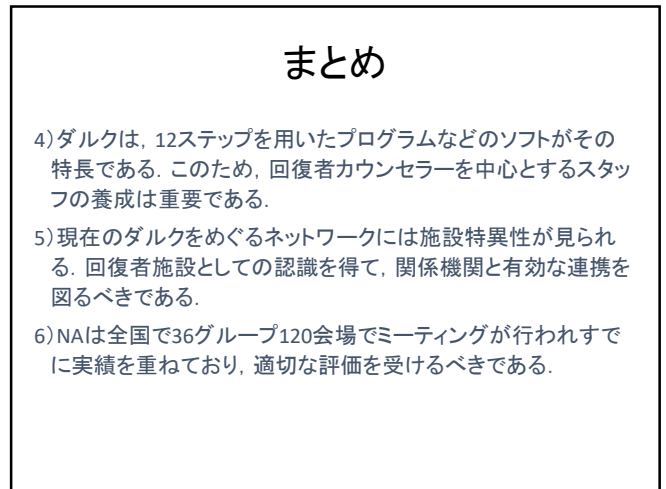
27



28



29



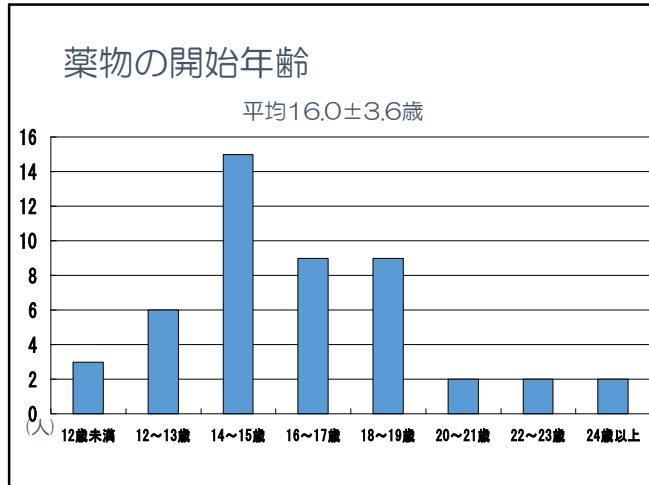
30

ダルク利用経験者の回復に関する調査

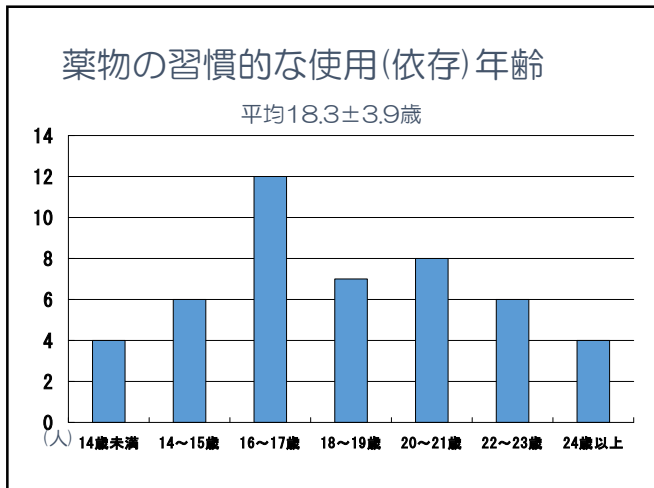
分担研究者 近藤恒夫¹⁾
 研究協力者 坪倉洋一¹⁾、森田邦雅²⁾、幸田実²⁾、三浦陽二³⁾
 比江島誠人⁴⁾、村上優⁴⁾、宮永耕⁵⁾

¹⁾日本ダルク ²⁾東京ダルク ³⁾沖縄ダルクリハビリテーションセンター
⁴⁾国立肥前療養所 ⁵⁾横浜市港北福祉事務所

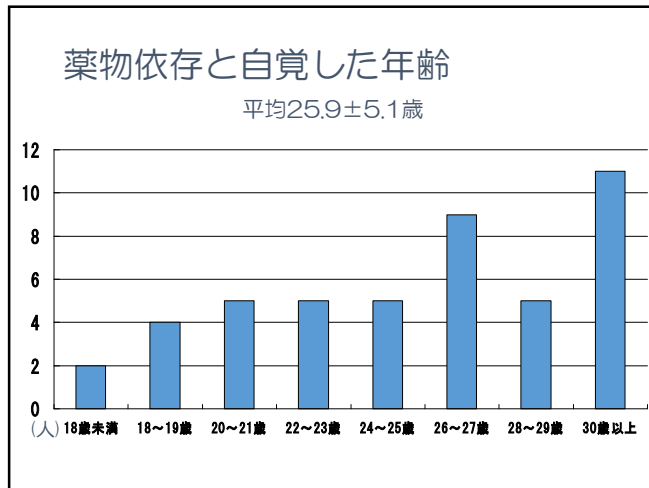
31



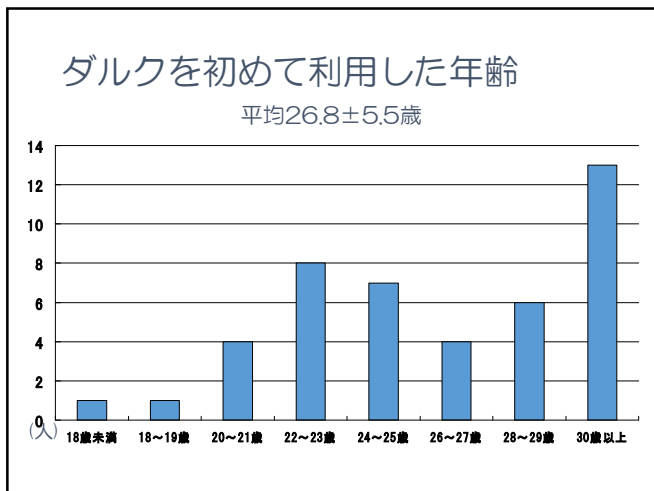
32



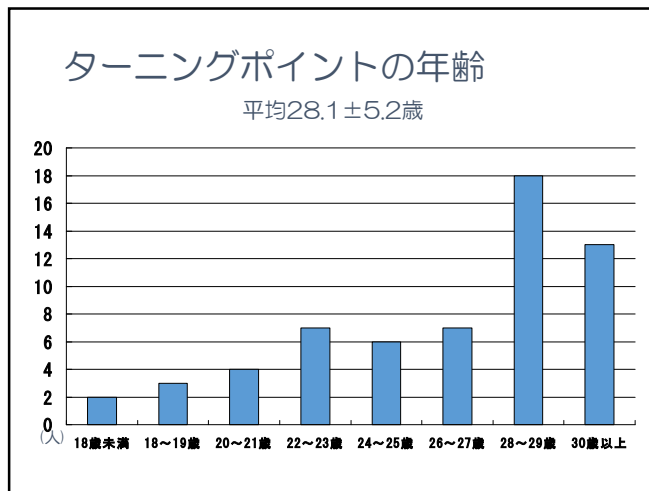
33



34



35



36

まとめ

1. ダルクを利用して回復途上にあり1年以上の断薬期間を持つ男性42名、女性8名を対象に薬物依存からの回復について調査した。
2. 全体の半数が司法・矯正施設の体験を持つ一方、精神科医療機関については9割が利用していた。
3. 半数は覚醒剤、有機溶剤、大麻、抗不安薬の使用経験があったが多剤の乱用歴があった。
4. 薬物使用の開始年齢は平均16歳、薬物依存の発症は平均18歳、薬物依存と自覚した年齢は平均26歳、ダルクにつながった年齢は平均27歳、ターニングポイントは平均28歳であった。

37

まとめ

5. 依存が始まって回復に至るまでは8年から10年の期間を要しており、その間に生活上の困難や医療機関の受診、司法・矯正施設の体験を有する。
6. 回復に必要な要素として挙げられたものは、具体的な底つき体験と出会いに集約される。

38

ダルク利用者の回復 と 社会復帰支援のあり方

分担研究者 近藤恒夫¹⁾
研究協力者 坪倉洋一¹⁾、岩井喜代仁²⁾、森田邦雅³⁾
比江島誠人⁴⁾、村上優⁴⁾、宮永耕⁵⁾

¹⁾日本ダルク ²⁾茨城ダルク ³⁾東京ダルク
⁴⁾国立肥前療養所 ⁵⁾東海大学健康科学部

39

まとめ

1. 薬物依存発症からダルクへ援助を求めてつながるのに9～10年を要していた。
2. 回復後に振り返ったダルクにつながったときの心理的状況、家族の状況、社会的状況を示した。これらはダルクの援助を求め、プログラムを受けることにつながる機制を反映しており、回復に意味ある状況と考えられた。
3. キュプラー・ロスの悲嘆の5段階にそって否認から受容への過程を示した。
4. 回復者カウンセラーにいたる経過と課題を示した。
5. 医療・司法・社会への要望は薬物依存の疾病としての理解、回復の機会、治療のプログラム、場の提供が求められていた。

40

薬物依存専門治療施設の モデル化に関する研究

分担研究者 村上 優 国立肥前療養所
研究協力者 小宮山徳太郎 国立精神・神経センター武蔵病院
平井慎二 国立下総療養所
杠 岳文、比江島誠一、遠藤光一、吉森智香子
国立肥前療養所
成瀬暢也 埼玉県精神保健総合センター
岸本英爾 神奈川県立精神医療センター
せりがや病院
中村 恵 茨城県立友部病院
小沼杏坪 医療法人せのがわ会瀬野川病院
広島薬物依存研究所

41

42

目的

我が国の薬物依存治療システムを類型化してモデルとして提示し、また各施設での治療転帰を長期に調査する体制を整え、今後の我が国の薬物依存治療システムを整備と発展に寄与する

方法

我が国で行われている薬物関連精神障害の専門治療プログラム、システムについて比較検討して類型化し治療システムのモデル化を提示した

43

44

調査対象

- 国立精神・神経センター武蔵病院
- 国立下総療養所
- 国立肥前療養所
- 埼玉県精神保健総合センター
- 神奈川県立精神医療センターせりがや病院
- 茨城県立友部病院
- 医療法人せのがわ会瀬野川病院

類型化

1. 生物学的治療モデル
国立武蔵病院
2. 治療環境（専門病棟）モデル
国立下総療養所
3. 専門病棟集団療法プログラム（DRP）モデル
国立肥前療養所
埼玉県精神医療総合センター
神奈川県立精神医療センターせりがや病院
4. 急性期（離脱・解毒）治療モデル
茨城県立友部病院
5. 薬物治療プログラムモデル
瀬野川病院

45

46

平成12年度薬物依存患者数

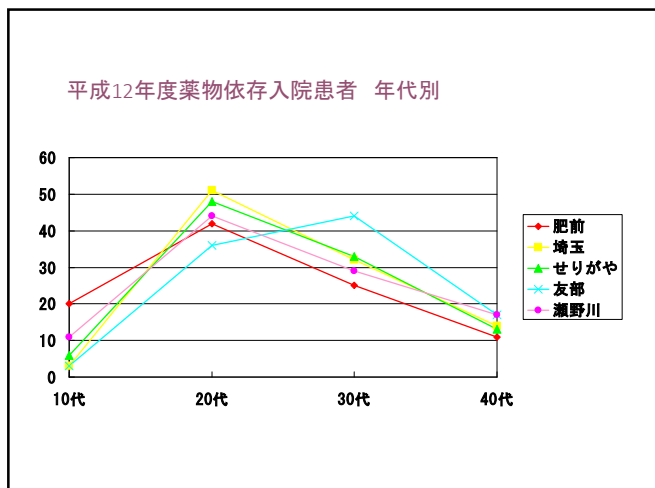
施設	新患者数			入院患者数			調査日入院患者数		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
武蔵	—	—	—	—	—	—	—	—	—
下総	—	—	—	181	145	36	22	21	1
肥前	112	73	39	55	37	18	8	5	3
埼玉	84	63	21	65	47	18	8	6	2
せりがや	318	224	94	181	129	52	9	8	1
友部	74	66	8	64	56	8	—	—	—
瀬野川	88	71	17	139	109	30	26	17	9
計	676	497	169	685	523	162	73	57	16

平成12年度薬物依存新患者 年代別

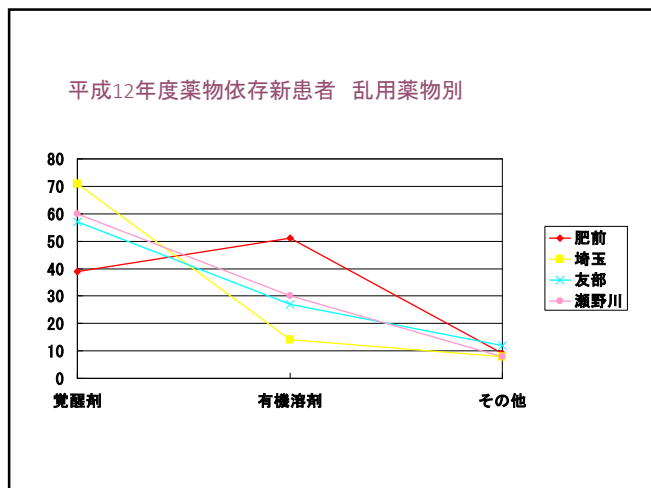


47

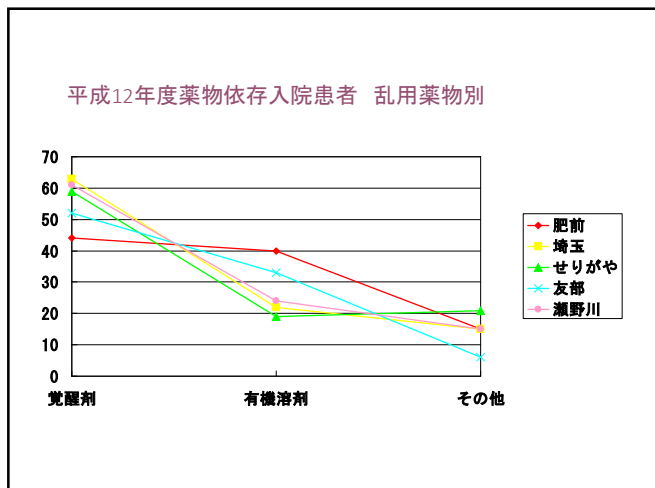
48



49



50



51

外 来

施設	専門外来	外来プログラム	家族プログラム
武 蔵	なし	なし	1/月、心理教育、集団
下 総	あり	条件契約療法	MHWCを紹介
肥 前	あり	フリーインターベンション	2/月、構造的家族療法、MHWCを紹介
埼 玉	あり	外来ミーティング	2/月、薬物家族教室
せりがや	あり	外来ミーティング	2/月、薬物家族教室
友 部	なし	なし	MHWCを紹介
瀬野川	アルコール外来として	なし	2/年、家族会

52

入 院

施設	入院プログラム	入院形態	入院期間
武 蔵	アルコール依存と同一	非自発的入院	9~10ヶ月
下 総	薬物依存専門	自発19%、非自発81%	2ヶ月
肥 前	薬物依存専門	自発的入院	4週間
埼 玉	薬物専門	自発的入院	8週間
せりがや	薬物専門	自発的入院	4週間
友 部	なし	自発的入院が主	2週間
瀬野川	覚せい剤プログラム 有機溶剤プログラム	自発と非自発	3ヶ月

53

病 棟

施設	専門病棟	男女	閉鎖・開放
武 蔵	アルコール・薬物依存専門	混合	閉鎖
下 総	薬物依存専門	混合	閉鎖
肥 前	アルコール・薬物依存併用専門	別	開放
埼 玉	アルコール・薬物依存専門	混合	閉鎖
せりがや	アルコール・薬物依存専門	別	閉鎖
友 部	急性期治療病棟で対応		閉鎖
瀬野川	アルコール中心で薬物依存を併用	混合	閉鎖・開放

54

治 療

施設	心理社会的治療	非精神状態で薬物療法
武 蔵	基本治療	なし（精神状態HPD100-200mg）
下 総	基本治療、認知行動、内観、自助、ダルク	なし
肥 前	基本治療、ボランティア、ダルク	なし
埼 玉	基本治療、自助、ダルク	定型・非定型抗精神薬、BZ系SSRI、気分調整薬
せりがや	基本治療、自助、ダルク	BZ系
友 部	なし、ダルクとのネットワーク	なし
瀬野川	認知行動、内観、自助	BZ系

*基本治療：個人精神療法、集団精神療法、心理教育、作業、運動

55

ネットワーク

施設	自助グループ	ダルク	社会復帰	司法	地域
武 蔵	希望	なし	時に	なし	なし
下 総	メッセージ	メッセージ	なし	薬務課、麻取、矯正	あり
肥 前	メッセージ参加	メッセージ参加	なし	ケースにより	MHWC
埼 玉	メッセージ参加	メッセージ参加	なし	ケースにより	保健所
せりがや	参加	メッセージ参加	あり	なし	MHWC
友 部	メッセージ	メッセージ全例に動機付	なし	なし	MHWC 保健所
瀬野川	メッセージ	なし	援護寮、福祉ホーム	警察、麻取、矯正	なし

56

- ### まとめ
1. 現在の専門医療機関を5モデルに分類した
 2. 専門基本医療の共通項目を示した
 3. 対象患者の病態、乱用薬物、世代によるプログラムの差を検討した
 4. 治療の集中度や費用対効果について示した
 5. 年1回でも入院例は685例を超えており転帰調査の母集団となりうることを示した

57

- ### 本日の内容
- 自己紹介/向陽台病院について
 - 回復者調査
 - 出会いと別れ
 - 回復に必要なもの

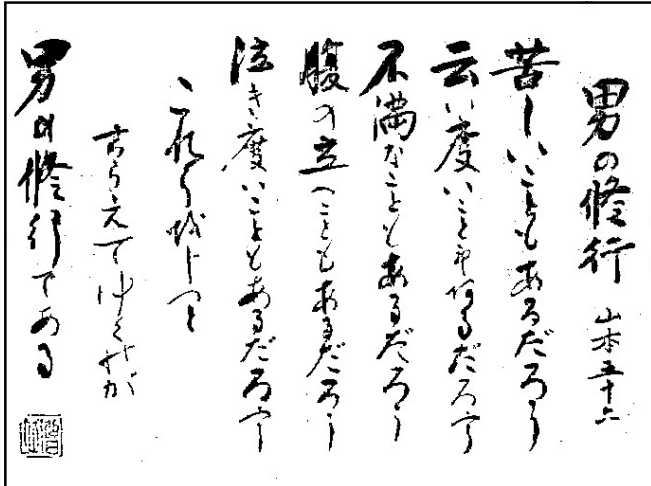
58



59

- ### 本日の内容
- 23年間
 - 自己紹介/向陽台病院について
 - 回復者調査
 - 出会いと別れ
 - 回復に必要なもの

60



61

平安の祈り

神様 私にお与えください。
 自分に変えられないものを 受け入れる落ち着きを、
 変えられるものは 変えてゆく勇気を、
 そして二つのものを 見分ける賢さを。

THE SERENITY PRAYER

God grant me the serenity to accept
 the things I cannot change,
 courage to change the things I can,
 and wisdom to know the difference
 (Reinhold Niebuhr)

62

援助者に必要なこと

- 回復を信じること
= 回復者に会うこと
- チーム
- スーパーバイザー
- カウンセラー
- 休暇・楽しみ
- 『男の修行』から『平安の祈り』へ

付録① 支援者ストレスのチェックリスト

1. 身体
 食欲、睡眠、快楽のどれかが欠けている
 体がだるい
 頭痛、歯痛、目眩が頻りに
 すぐに疲労を感じる、なかなか治らない
 動悸がある

2. 感情と行動
 簡単に怒り出すのが難しい
 要領が劣るの気になる
 ことばを覚えて、他人に伝えない
 人と話すのが億劫になった
 命の危険を感じる
 周囲の人や自分が事件を契機にないとも思えない
 事件の被害者と思われたい
 理由もなく、涙が出る
 他人を信じることが難しくなった

3. 仕事と生活
 上司、同僚が自分の仕事に理解を示さない
 休む時間がない
 今の仕事は、これまでに経験したことがない内容である
 仕事をこなすのに必要な情報が不足している
 自分の仕事には責任がないと思う
 仕事場での意思決定が自分にとって大切な人の意思と合っていない
 仕事をこなす必要のない業務に時間を取られている
 必要と認めない人が多くいる
 業務終了と同時に気が晴れない
 今の仕事は、自分の能力を十分に発揮できている
 今の仕事は、自分の能力を十分に発揮できている

4. 人間関係
 家族や友人から、いざ知らずされている、と指摘される
 家族、友人、同僚との距離が遠くなった
 家族や友人と話す時間が減った
 仕事場での付き合いがなくなった

5. 経済ストレス
 この1年間の生活費の上昇の大きさ(物価、燃料、食料、娯楽、医療、大検、冠婚葬祭)を体験した

※ 以上が5項目のいずれか3項目以上が該当する場合は、支援者の負担が大きくなる可能性があります。このチェックリストは、支援者の自己チェックにのみ有効です。定期的に自身のストレスチェックを行い、適切な対応をすること。

63

座右の銘

- 「人は愛するに足り、真心は信ずるに足る」(中村哲)
- 「回復に必要な要素として挙げられたものは、具体的な底つき体験と出会いに集約される。」(村上優)
- 「死ぬ前に責任取らなくっちゃ」(杠岳文)

64

回復に必要なもの

人を信じること
 出会いを大切にすること
 自分が自分であること

↓

自分は自分、他人は他人
 助けを求めて良い
 一緒に楽しむ仲間がいれば大丈夫
 12ステップやダルクのプログラムは有効

65

ご静聴ありがとうございました。

ひえじま しげと
 比江島 誠人

医療法人横田会向陽台病院

〒861-0142 熊本県熊本市北区植木町鏡田1025
 TEL 096-272-7211 FAX 096-273-2355
<http://koyodai.or.jp>

66